

様式第2号の1-②【(1)実務経験のある教員等による授業科目の配置】

※専門学校は、この様式を用いること。大学・短期大学・高等専門学校は、様式第2号の1-①を用いること。

学校名	新潟情報専門学校
設置者名	学校法人 電子開発学園九州

1. 「実務経験のある教員等による授業科目」の数

課程名	学科名	夜間・通信制の場合	実務経験のある教員等による授業科目の単位数又は授業時数	省令で定める基準単位数又は授業時数	配置困難
工業専門課程	情報システム専門科	夜・通信	310 時間	240 時間	
	情報システム科	夜・通信	270 時間	160 時間	
	マルチメディア専門科	夜・通信	420 時間	240 時間	
	マルチメディア科	夜・通信	270 時間	160 時間	
	大学併修科	夜・通信	380 時間	320 時間	
(備考)					

2. 「実務経験のある教員等による授業科目」の一覧表の公表方法

ホームページアドレス https://www.nics.ac.jp/disclosure/12_johokoukai.pdf

3. 要件を満たすことが困難である学科

学科名
(困難である理由)

様式第2号の2-①【(2)-①学外者である理事の複数配置】

※ 国立大学法人・独立行政法人国立高等専門学校機構・公立大学法人・学校法人・準学校法人は、この様式を用いること。これら以外の設置者は、様式第2号の2-②を用いること。

学校名	新潟情報専門学校
設置者名	学校法人 電子開発学園九州

1. 理事（役員）名簿の公表方法

希望者には学校備付けの役員名簿を閲覧させる

2. 学外者である理事の一覧表

常勤・非常勤の別	前職又は現職	任期	担当する職務内容 や期待する役割
非常勤	株式会社役員	R2.6.27～ R4.6.26	経理・財務
非常勤	株式会社役員	R2.6.27～ R4.6.26	法人経営
(備考) 外部理事 総数3名			

様式第2号の3 【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】

学校名	新潟情報専門学校
設置者名	学校法人 電子開発学園九州

○厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表の概要

<p>1. 授業科目について、授業の方法及び内容、到達目標、成績評価の方法や基準その他の事項を記載した授業計画書(シラバス)を作成し、公表していること。</p>													
<p>(授業計画書の作成・公表に係る取組の概要)</p> <p>毎年「教育課程編成委員会」を開催して、授業科目の見直しや新設、廃止を決定している。</p> <p>新規に実施する授業科目については、別途定める「シラバス作成ガイドライン」に基づき、様式及び記載項目(科目名、時間数、科目概要、学習到達目標、講義計画、使用教材、実習環境、目標資格、成績評価方法)、表現方法を統一したシラバスを3月末までに作成する。</p> <p>それらのシラバスは、要求に応じて、いつでも閲覧できるよう職員室に設置するとともに、学生には学生用校内 Web サーバを介して公表している。</p>													
授業計画書の公表方法	<ul style="list-style-type: none"> ・希望者には学校備付けの「シラバス」を閲覧させる ・学生には学生用校内 Web サーバで公表 												
<p>2. 学修意欲の把握、試験やレポート、卒業論文などの適切な方法により、学修成果を厳格かつ適正に評価して単位を与え、又は、履修を認定していること。</p>													
<p>(授業科目の学修成果の評価に係る取組の概要)</p> <p>学生の出席状況については、授業科目を実施する毎に出席確認を行い記録している。また、試験やレポート等の評価については、各授業科目のシラバスに明記しており、その内容に従って適正な評価を行っている。</p> <p>最終評価点に対する成績評価(秀・優・良・可・不可)については、明確な点数基準を定めており、これらについては修学の手引きに明記することで、全学生へ周知している。なお、2018年度より前に入学した学生に対する成績評価は4段階評価(優・良・可・不可)で行っている。</p> <p>なお点数に対する成績評価は次のとおりである。</p> <table border="0"> <tr> <td>2018年度以降の入学者</td> <td>2018年度より前の入学者</td> </tr> <tr> <td>100～90点：秀</td> <td>100～80点：優</td> </tr> <tr> <td>89～80点：優</td> <td>79～70点：良</td> </tr> <tr> <td>79～70点：良</td> <td>69～60点：可</td> </tr> <tr> <td>69～60点：可</td> <td>59点以下：不可</td> </tr> <tr> <td>59点以下：不可</td> <td></td> </tr> </table>		2018年度以降の入学者	2018年度より前の入学者	100～90点：秀	100～80点：優	89～80点：優	79～70点：良	79～70点：良	69～60点：可	69～60点：可	59点以下：不可	59点以下：不可	
2018年度以降の入学者	2018年度より前の入学者												
100～90点：秀	100～80点：優												
89～80点：優	79～70点：良												
79～70点：良	69～60点：可												
69～60点：可	59点以下：不可												
59点以下：不可													

<p>3. 成績評価において、G P A等の客観的な指標を設定し、公表するとともに、成績の分布状況の把握をはじめ、適切に実施していること。</p> <p>(客観的な指標の設定・公表及び成績評価の適切な実施に係る取組の概要)</p> <p>本校ではG P Aを導入していないものの、5段階の成績評価（秀・優・良・可・不可）を設けることで客観的な指標としており、これらについては修学の手引きに明記することで全学生へ周知している。なお、2018年度より前に入学した学生に対する成績評価は4段階評価（優・良・可・不可）で行っている。</p> <p>また、成績の分布状況については、履修科目の点数（0～100点）の平均に基づいて順位付けを行い、半期毎に通知する成績通知書に対象学科における「学年順位」を記載しており、学生は自身の成績が下位4分の1に入っていないかを把握できるようにしている。</p>	
<p>客観的な指標の算出方法の公表方法</p>	<p>ホームページアドレス https://www.nics.ac.jp/disclosure/02_johokoukai.pdf</p>
<p>4. 卒業の認定に関する方針を定め、公表するとともに、適切に実施していること。</p> <p>(卒業の認定方針の策定・公表・適切な実施に係る取組の概要)</p> <p><卒業の認定方針></p> <p>教育理念及び目標とする人材像に基づき、実践的なIT人材として必要な次の能力を身に付け、学則で定める修業年限以上在籍し、所定の科目を履修した学生に対して卒業を認定する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・情報システム開発の知識と技術を修得し問題解決に活用できる ・コミュニケーション力を持ち、他者と協働できる ・倫理観を持って行動できる <p><実施に係る取組></p> <p>「修業年限以上在籍」については主に出席状況、「所定の科目を履修」については成績評価状況を基に判断する。</p> <p>なお、出欠及び成績評価状況は、1年次から半期毎に学生・保護者へ通知のうえ、問題がある場合は適宜フォローを行いながら進級・卒業指導を行い、年度末の「進級・卒業判定会議」を経て、校長が進級・卒業を認定する。</p>	
<p>卒業の認定に関する方針の公表方法</p>	<p>ホームページアドレス https://www.nics.ac.jp/disclosure/01_johokoukai.pdf</p>

様式第2号の4-②【(4)財務・経営情報の公表（専門学校）】

※専門学校は、この様式を用いること。大学・短期大学・高等専門学校は、様式第2号の4-①を用いること。

学校名	新潟情報専門学校
設置者名	学校法人 電子開発学園九州

1. 財務諸表等

財務諸表等	公表方法
貸借対照表	希望者には学校備付けの「貸借対照表」を閲覧させる
収支計算書又は損益計算書	希望者には学校備付けの「収支計算書」を閲覧させる
財産目録	希望者には学校備付けの「財産目録」を閲覧させる
事業報告書	希望者には学校備付けの「事業報告書」を閲覧させる
監事による監査報告（書）	希望者には学校備付けの「監事による監査報告書」を閲覧させる

2. 教育活動に係る情報

①学科等の情報

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
工業		工業専門課程	情報システム専門科	○	—		
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
3年	昼	3,310単位時間	1,770 単位時間	260 単位時間	1,280 単位時間	単位時間	単位時間
			3,310単位時間				
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
180人		216人	0人	6人	4人	10人	

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）
<p>（概要）</p> <p>毎年「教育課程編成委員会」を開催して、授業科目の見直しや新設、廃止を決定している。</p> <p>新規に実施する授業科目については、別途定める「シラバス作成ガイドライン」に基づき、様式及び記載項目（科目名、時間数、科目概要、学習到達目標、講義計画、使用教材、実習環境、目標資格、成績評価方法）、表現方法を統一したシラバスを3月末までに作成する。</p>
成績評価の基準・方法
<p>（概要）</p> <p>学生の出席状況については、授業科目を実施する毎に出席確認を行い記録している。また、試験やレポート等の評価については、各授業科目のシラバスに明記しており、その内容に従って適正な評価を行っている。</p> <p>なお点数に対する成績評価は以下のとおりである。</p> <p>100～90点：秀 89～80点：優 79～70点：良 69～60点：可 59点以下：不可</p>
卒業・進級の認定基準
<p>（概要）</p> <p>進級・卒業の認定は、①学科所定の年限以上在籍すること、②学科所定の科目を履修すること、としており、①については主に出席状況、②については成績評価状況を基に判断する。</p>
学修支援等
<p>（概要）</p> <p>中途退学への取組として、担任、学年主任、コース長によるフォローと併せ、スクールカウンセラーによる継続的なカウンセリングを受ける機会を設けている。</p> <p>また、様々なハラスメントを防止するため、ハラスメント防止委員会と相談窓口を設置し、学生からの悩みや相談に対応できる体制を整えている。</p>

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
情報システム専門科			
卒業生数	進学者数	就職者数 （自営業を含む。）	その他
33人 （100%）	0人 （0%）	33人 （100%）	0人 （0%）
（主な就職、業界等） 情報処理開発、IT系企業など			
（就職指導内容） クラス担任と就職指導スタッフが連携して、学生一人ひとりにあった万全の就職サポートで、就職活動を完全にバックアップ 保護者会、業界動向セミナー、校内企業説明会などを実施			
（主な学修成果（資格・検定等）） 情報処理安全確保支援士(国)、応用情報技術者(国)、基本情報技術者(国)、情報セキュリティマネジメント(国)、ITパスポート(国)、オラクルマスター、オラクル認定Javaプログラマ、SEA/J、MTAセキュリティの基礎、情報検定等			
（備考）（任意記載事項）			

中途退学の現状：情報システム専門科		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
170人	2人	1.2%
（中途退学の主な理由） 意欲欠如、病气ケガ		
（中退防止・中退者支援のための取組） スクールカウンセラーによる面談、補講などの授業フォローアップ、保護者との面談、ハラスメント相談窓口など		

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
工業		工業専門課程	情報システム科	○	—		
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
2年	昼	2,190単位時間	1,200 単位時間	260 単位時間	730 単位時間	単位時間	単位時間
			2,190単位時間				
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
80人		77人	0人	3人	2人	5人	

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）
<p>（概要）</p> <p>毎年「教育課程編成委員会」を開催して、授業科目の見直しや新設、廃止を決定している。</p> <p>新規に実施する授業科目については、別途定める「シラバス作成ガイドライン」に基づき、様式及び記載項目（科目名、時間数、科目概要、学習到達目標、講義計画、使用教材、実習環境、目標資格、成績評価方法）、表現方法を統一したシラバスを3月末までに作成する。</p>
成績評価の基準・方法
<p>（概要）</p> <p>学生の出席状況については、授業科目を実施する毎に出席確認を行い記録している。また、試験やレポート等の評価については、各授業科目のシラバスに明記しており、その内容に従って適正な評価を行っている。</p> <p>なお点数に対する成績評価は以下のとおりである。</p> <p>100～90点：秀</p> <p>89～80点：優</p> <p>79～70点：良</p> <p>69～60点：可</p> <p>59点以下：不可</p>
卒業・進級の認定基準
<p>進級・卒業の認定は、①学科所定の年限以上在籍すること、②学科所定の科目を履修すること、としており、①については主に出席状況、②については成績評価状況を基に判断する。</p>
学修支援等
<p>（概要）</p> <p>中途退学への取組として、担任、学年主任、コース長によるフォローと併せ、スクールカウンセラーによる継続的なカウンセリングを受ける機会を設けている。</p> <p>また、様々なハラスメントを防止するため、ハラスメント防止委員会と相談窓口を設置し、学生からの悩みや相談に対応できる体制を整えている。</p>

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
情報システム科			
卒業生数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
56人 (100%)	0人 (0%)	56人 (100%)	0人 (0%)
(主な就職、業界等) 情報処理開発, IT系企業など			
(就職指導内容) クラス担任と就職指導スタッフが連携して、学生一人ひとりにあった万全の就職サポートで、就職活動を完全にバックアップ 保護者会、業界動向セミナー、校内企業説明会などを実施			
(主な学修成果(資格・検定等)) 応用情報技術者(国)、基本情報技術者(国)、情報セキュリティマネジメント(国)、オラクル認定Javaプログラマ、SEA/J、情報検定等			
(備考) (任意記載事項)			

中途退学の現状：情報システム科		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
96人	1人	1.0%
(中途退学の主な理由) 意欲欠如		
(中退防止・中退者支援のための取組) スクールカウンセラーによる面談、補講などの授業フォローアップ、保護者との面談、ハラスメント相談窓口など		

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
工業		工業専門課程	マルチメディア専門科	○	—		
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
3年	昼	3,310単位時間	1,690 単位時間	180 単位時間	1,440 単位時間	単位時間	単位時間
			3,310単位時間				
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
72人		61人	0人	3人	2人	5人	

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）
<p>（概要）</p> <p>毎年「教育課程編成委員会」を開催して、授業科目の見直しや新設、廃止を決定している。</p> <p>新規に実施する授業科目については、別途定める「シラバス作成ガイドライン」に基づき、様式及び記載項目（科目名、時間数、科目概要、学習到達目標、講義計画、使用教材、実習環境、目標資格、成績評価方法）、表現方法を統一したシラバスを3月末までに作成する。</p>
成績評価の基準・方法
<p>（概要）</p> <p>学生の出席状況については、授業科目を実施する毎に出席確認を行い記録している。また、試験やレポート等の評価については、各授業科目のシラバスに明記しており、その内容に従って適正な評価を行っている。</p> <p>なお点数に対する成績評価は以下のとおりである。</p> <p>100～90点：秀</p> <p>89～80点：優</p> <p>79～70点：良</p> <p>69～60点：可</p> <p>59点以下：不可</p>
卒業・進級の認定基準
<p>（概要）</p> <p>進級・卒業の認定は、①学科所定の年限以上在籍すること、②学科所定の科目を履修すること、としており、①については主に出席状況、②については成績評価状況を基に判断する。</p>
学修支援等
<p>（概要）</p> <p>中途退学への取組として、担任、学年主任、コース長によるフォローと併せ、スクールカウンセラーによる継続的なカウンセリングを受ける機会を設けている。</p> <p>また、様々なハラスメントを防止するため、ハラスメント防止委員会と相談窓口を設置し、学生からの悩みや相談に対応できる体制を整えている。</p>

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
マルチメディア専門科			
卒業生数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
16人 (100%)	0人 (0%)	16人 (100%)	0人 (0%)
(主な就職、業界等) 情報処理開発, IT系企業など			
(就職指導内容) クラス担任と就職指導スタッフが連携して、学生一人ひとりにあった万全の就職サポートで、就職活動を完全にバックアップ 保護者会、業界動向セミナー、校内企業説明会などを実施			
(主な学修成果(資格・検定等)) データベーススペシャリスト(国)、情報処理安全確保支援士(国)、応用情報技術者(国)、基本情報技術者(国)、CGクリエイタ検定、SEA/J、情報検定等			
(備考) (任意記載事項)			

中途退学の現状：マルチメディア専門科		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
58人	2人	3.4%
(中途退学の主な理由) 意欲欠如、コミュニケーション障がい		
(中退防止・中退者支援のための取組) スクールカウンセラーによる面談、補講などの授業フォローアップ、保護者との面談、ハラスメント相談窓口など		

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
工業		工業専門課程	マルチメディア科	○	—		
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
2年	昼	2,190単位時間	1,090 単位時間	180 単位時間	920 単位時間	単位時間	単位時間
			2,190単位時間				
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
48人		23人	0人	0人	5人	5人	

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）
<p>（概要）</p> <p>毎年「教育課程編成委員会」を開催して、授業科目の見直しや新設、廃止を決定している。</p> <p>新規に実施する授業科目については、別途定める「シラバス作成ガイドライン」に基づき、様式及び記載項目（科目名、時間数、科目概要、学習到達目標、講義計画、使用教材、実習環境、目標資格、成績評価方法）、表現方法を統一したシラバスを3月末までに作成する。</p>
成績評価の基準・方法
<p>（概要）</p> <p>学生の出席状況については、授業科目を実施する毎に出席確認を行い記録している。また、試験やレポート等の評価については、各授業科目のシラバスに明記しており、その内容に従って適正な評価を行っている。</p> <p>なお点数に対する成績評価は以下のとおりである。</p> <p>100～90点：秀</p> <p>89～80点：優</p> <p>79～70点：良</p> <p>69～60点：可</p> <p>59点以下：不可</p>
卒業・進級の認定基準
<p>（概要）</p> <p>進級・卒業の認定は、①学科所定の年限以上在籍すること、②学科所定の科目を履修すること、としており、①については主に出席状況、②については成績評価状況を基に判断する。</p>
学修支援等
<p>（概要）</p> <p>中途退学への取組として、担任、学年主任、コース長によるフォローと併せ、スクールカウンセラーによる継続的なカウンセリングを受ける機会を設けている。</p> <p>また、様々なハラスメントを防止するため、ハラスメント防止委員会と相談窓口を設置し、学生からの悩みや相談に対応できる体制を整えている。</p>

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
マルチメディア科			
卒業生数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
11人 (100%)	0人 (0%)	11人 (100%)	0人 (0%)
(主な就職、業界等) 情報処理開発、IT系企業など			
(就職指導内容) クラス担任と就職指導スタッフが連携して、学生一人ひとりにあつた万全の就職サポートで、就職活動を完全にバックアップ 保護者会、業界動向セミナー、校内企業説明会などを実施			
(主な学修成果（資格・検定等）) 基本情報技術者(国)、CGクリエイター検定、Webデザイナー検定、マルチメディア検定、情報検定等			
(備考) (任意記載事項)			

中途退学の現状：マルチメディア科		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
24人	0人	0.0%
(中途退学の主な理由)		
(中退防止・中退者支援のための取組) スクールカウンセラーによる面談、補講などの授業フォローアップ、保護者との面談、ハラスメント相談窓口など		

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
工業		工業専門課程	大学併修科	—	○		
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
4年	昼	3,760単位時間 (※)	2,500	180	1,080		
			2,470	120	1,170		
			2,620	180	960		
			単位時間	単位時間	単位時間	単位時間	単位時間
3,760単位時間							
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
320人		236人	0人	8人	2人	10人	

※大学併修科は3年次からの専攻選択(情報システム専攻、情報メディア専攻、医療情報システム専攻)により、「講義」・「演習」・「実習」の授業時数が異なる。

カリキュラム (授業方法及び内容、年間の授業計画)
(概要) 毎年「教育課程編成委員会」を開催して、授業科目の見直しや新設、廃止を決定している。 新規に実施する授業科目については、別途定める「シラバス作成ガイドライン」に基づき、様式及び記載項目(科目名、時間数、科目概要、学習到達目標、講義計画、使用教材、実習環境、目標資格、成績評価方法)、表現方法を統一したシラバスを3月末までに作成する。
成績評価の基準・方法
(概要) 学生の出席状況については、授業科目を実施する毎に出席確認を行い記録している。また、試験やレポート等の評価については、各授業科目のシラバスに明記しており、その内容に従って適正な評価を行っている。 なお点数に対する成績評価は以下のとおりである。 2018年度以降の入学者 2018年度より前の入学者 100～90点：秀 100～80点：優 89～80点：優 79～70点：良 79～70点：良 69～60点：可 69～60点：可 59点以下：不可 59点以下：不可
卒業・進級の認定基準
(概要) 進級・卒業の認定は、①学科所定の年限以上在籍すること、②学科所定の科目を履修すること、としており、①については主に出席状況、②については成績評価状況を基に判断する。
学修支援等
(概要) 中途退学への取組として、担任、学年主任、コース長によるフォローと併せ、スクールカウンセラーによる継続的なカウンセリングを受ける機会を設けている。 また、様々なハラスメントを防止するため、ハラスメント防止委員会と相談窓口を設置し、学生からの悩みや相談に対応できる体制を整えている。

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
大学併修科			
卒業生数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
33人 (100%)	0人 (0%)	31人 (93.9%)	2人 (6.1%)
(主な就職、業界等) 情報処理開発, IT系企業など			
(就職指導内容) クラス担任と就職指導スタッフが連携して、学生一人ひとりにあった万全の就職サポートで、就職活動を完全にバックアップ 保護者会、業界動向セミナー、校内企業説明会などを実施			
(主な学修成果(資格・検定等)) ネットワークスペシャリスト(国)、データベーススペシャリスト(国)、情報処理安全確保支援士(国)、応用情報技術者(国)、基本情報技術者(国)、オラクルマスター、オラクル認定 Java プログラマ、SEA/J、CG クリエータ検定、医療情報技師能力検定、医療情報基礎知識検定、日商簿記検定、情報検定 等			
(備考) (任意記載事項)			

中途退学の現状：大学併修科		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
214人	6人	2.8%
(中途退学の主な理由) 意欲欠如、不登校、経済的理由 など		
(中退防止・中退者支援のための取組) スクールカウンセラーによる面談、補講などの授業フォローアップ、保護者との面談、ハラスメント相談窓口など		

②学校単位の情報

a) 「生徒納付金」等

学科名	入学金	授業料 (年間)	その他	備考 (任意記載事項)
大学併修科	100,000 円	364,000 円	377,996 円 ～445,639 円	左記とは別に北海道情報大学通信教育部への入学金や学費、教科書・教材費等が必要
情報システム専門科	150,000 円	558,000 円	466,540 円 ～499,398 円	
マルチメディア専門科	150,000 円	558,000 円	477,376 円 ～508,220 円	
情報システム科	150,000 円	558,000 円	487,385 円 ～499,200 円	
マルチメディア科	150,000 円	558,000 円	476,048 円 ～506,350 円	
修学支援 (任意記載事項)				
学校独自の学費支援制度として、「AO 特典(奨学金 5 万円)」、「指定校推薦特典(奨学金 5 万円)」、「資格取得者特典(奨学金 1～20 万円)」、「努力成果特典(奨学金 1～5 万円)」、「高校既卒者支援(奨学金 10 万円)」、「同窓子弟特典(奨学金 10 万円)」、「JOHO 奨学生(奨学金 3～20 万円)」があり、入学後支給し返済の必要なし。なお、詳細は「学生募集要項」を参照のこと。				

b) 学校評価

自己評価結果の公表方法 (ホームページアドレス又は刊行物等の名称及び入手方法) https://www.nies.ac.jp/common/pdf/00_R01jikohyouka.pdf		
学校関係者評価の基本方針 (実施方法・体制) 企業委員(2名)、卒業生委員(2名)および地域住民委員(1名)から構成される委員会 が、学校の自己評価結果をもとに、学校運営を評価する。 主な評価項目は、教育理念・目標、学校運営、教育活動、学修成果、学生支援、教育 環境、学生の受入れ募集、財務、法令等の遵守、社会貢献・地域貢献である。 その評価結果を教育活動その他の学校運営改善等に生かし、学校運営の客観性と透明 性を高めることを目的とする。		
学校関係者評価の委員		
所属	任期	種別
株式会社役員	平成 31 年 4 月 1 日 ～令和 3 年 3 月 31 日	企業委員
株式会社役員	平成 31 年 4 月 1 日 ～令和 3 年 3 月 31 日	企業委員
株式会社役員	平成 31 年 4 月 1 日 ～令和 3 年 3 月 31 日	卒業生委員
株式会社従業員	平成 31 年 4 月 1 日 ～令和 3 年 3 月 31 日	卒業生委員
町内会役員	平成 31 年 4 月 1 日 ～令和 3 年 3 月 31 日	地域住民

学校関係者評価結果の公表方法 (ホームページアドレス又は刊行物等の名称及び入手方法) https://www.nics.ac.jp/disclosure/09_johokoukai.pdf
第三者による学校評価 (任意記載事項)

c) 当該学校に係る情報

(ホームページアドレス又は刊行物等の名称及び入手方法) https://www.nics.ac.jp/

備考 この用紙の大きさは、日本産業規格A4とする。